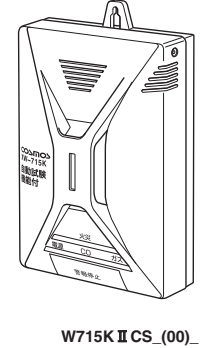


家庭用 **住宅用火災(熱式)・ガス・CO警報器**

型式名 **XW-715K**

施工説明書(施工される方へ)

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この施工説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。



1 お願いとご注意

警報器を正しく設置していただくため、また、あなたやお客さまへの危害や財産への損害を未然に防止するためにこの施工説明書には、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

2 施工される方へのお願い

●警報器を更新する場合は、交換前の警報器の電源プラグ部分について以下の確認を行い、お客さまに正しい取扱方法を説明してください。

- ①電源プラグの刃が曲がっていないか
曲がっている場合は、電源プラグに大きな力を掛けないようにしていただくことを説明。
- ②予備コンセントに接続される機器のプラグが曲がっていないか
曲がっている場合は、接続される機器のプラグに大きな力をかけた使い方をしていないようしていただくことを説明。
- ③予備コンセント部が焦げていないか
予備コンセントの容量を超えた消費電力の機器を接続しないようにしていただくことを説明。
- ④予備コンセントに接続される機器の消費電力が予備コンセントの容量を超えていないか
予備コンセントの容量を超えた消費電力の機器を接続しないようにしていただくことを説明。
- ⑤電源プラグ部分(予備コンセント含む)に水分やほこりがかかっていないか
電源プラグ部分(予備コンセント含む)に水分をかけないこと、ほこりがかかっている場合は取り除いていただくことを説明。

●取付終了後に施工説明書に従って「6-1 自動初期点検機能の確認」、および必要に応じて「6-2 作動点検」を行ってください。なお、作動不良の場合は交換してください。また、外部機器と連動した場合は、外部機器の取扱説明書、施工説明書に基づいて連動確認をしてください。

●必要に応じて、「3-1 警報器の説明」「3-2 お客さまへの周知事項」についてお客さまに説明を行い、ご理解を得てください。

●警報器を梱包から出された状態で持ち運びまたは保管しないでください。

注意 警報器には、落下などの強い衝撃を与えないように、取り扱いには十分に注意してください。故障や誤作動の原因になります。

●別売部品

部品名	型式名	機能
接続用リード線	LL-31	外部機器と接続する際に、警報器背面の外部出力コネクタに差し込むリード線。
警報器アダプター	OC-4M	マイコンメーターと接続する場合に使用。(有電圧出力信号を受けて、フォトトランジスタオープンコレクタ出力を出す)
戸外ブザー	EB-8	離れた場所に警報を出したい場合に使用。(有電圧出力信号を受けて、ブザー断続音とランプ点滅で知らせる)

3 お客さまへの説明について

3-1 警報器の説明

- ①警報動作および自動初期点検機能の結果の説明。作動点検をした場合は、作動点検の結果の説明。
- ②取扱説明書を必ず読んでいただくこと、取扱説明書および保証書を保管していただくことをお願い。
- ③取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
 - 1.火災警報の内容(赤スライド(火災警報)ランプ点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
 - 2.ガス警報の内容(赤(ガス警報)ランプ点滅・点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
 - 3.CO警報の内容(黄(CO警報)ランプ点滅・点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
 - 4.ガス警報、CO警報の同時警報の内容(赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプの点滅・点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
 - 5.部屋の外にいて、ガス警報、CO警報に気づいたときにとるべき処置の説明。
 - 6.誤報が発生する原因と処置の説明。
 - 7.スイッチ操作の説明。

3-2 お客さまへの周知事項

- ①保証期間5年。
- ②警報器の有効期限のお知らせ。(本体に貼付の有効期限ラベルに表示)
- ③保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
- ④警報器の移設禁止。(移設依頼時の連絡先)
- ⑤警報器の分解禁止。
- ⑥引越時の処置。
- ⑦故障・異常時の連絡先。

4 取り付け前の確認

4-1 警報器の確認

取り付ける警報器が空気より軽い12A・13Aガス用であり、本体、電源コードに異常のないことを確認してください。

4-2 梱包部品の確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。

本体…1個		取付板…1個
コード収納カバー…1個		ピン 長さ20mm…10本
コード振れ止め…3個		ピン 長さ10mm:3本(コード止め用)
木ねじ 長さ16mm:2本		取扱説明書(保証書付)…1枚
取付フック…1個		施工説明書(本書)…1枚

4-3 取付位置の確認

設置場所の選定については、お客さまとよく相談して決めてください。

注意 正しい取付位置に取り付けてください。取り付けてはいけない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤報、故障の原因となります。

正しい取付場所について

- ガス、COを検知しようとするガス機器を設置している場所と、同一の室内に取り付けてください。
- ガスやCOが滞留しやすい位置で、緑(電源)ランプの確認しやすい位置、点検が容易にできる場所へ取り付けてください。
- ガス、COを検知しようとするガス機器(一定位置に固定しないで使用されるガス機器の場合はガス栓)から、水平距離で8m以内、警報器の底面から天井面までの距離が22~30cm以内に取り付けてください。
- 換気口など、空気の吹出口から1.5m以上離してください。

●天井面が40cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取り付けてください。

取り付けてはいけない場所について

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けしないでください。

- レンジフード内やレンジフード本体への取り付け。アルコール等で警報することがあります。
- 換気扇、給気口、ドア付近など風通しの良い場所。
- すき間風の入る場所。
- 30cm以上(警報器含)のたれ壁などの下。
- カーテンウォールなどで仕切られた場所。警報が遅れます。
- 振動、衝撃の激しい場所。センサの故障の原因になります。
- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。
- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所。感電や電氣的故障の原因になります。
- 屋外。屋外用ではありません。
- たれ壁40cm以上で区切られている場所。
- エアコンなどの吹出口に近い場所。警報が遅れたり、検知できないことがあります。
- ビルの給湯室など夜間電源を切る場所。使用時でないときと電源を入れない場所。警報器としての機能を果たしません。
- 温度が0~+40°Cの範囲をこえる場所。警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。
- 食器棚などの上部。警報が遅れます。
- 照明器具などから発生する熱の影響を受ける場所。センサの故障の原因になります。
- ガス検知口に他の機器などを密着させないでください。警報が遅れることがあります。
- 業務用・工業用。家庭用です。業務用・工業用ではありません。

5 取り付けかた

5-1 有効期限の記入

この警報器の有効期限は、取り付け後5年間です。必ず、警報器本体に貼ってある「有効期限ラベル」に、有効期限の年月を記入してください。



5-2 電源コードの長さ調整のしかた

- ①電源コードをコンセントの長さに合わせて取り出す。
- ②必要な長さを取り出す。
- ③溝に電源コードをはめ込む。
- ④コード収納カバーを警報器本体に取り付ける。

5-3 警報器本体の取り付け

注意 ●取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けしないでください。●警報器の取付時に、警報器を落とさないように注意してください。センサの断線など、正常に作動しない恐れがあります。

付属の取付フックで取り付ける場合(石膏ボード壁専用)

注意 ●ピンを指に刺さないように、取り扱いには充分注意してください。●取付フックにピンを差し込むときは、穴が硬いので充分注意してください。●取付強度を保持するため、ピンは根元まで確実に打ち込んでください。●万一、ピンがゆるんだ場合は、取付位置をずらしてピンを付け直してください。

- ①取付フックを壁面に押し当て、位置決めピンを垂直に打ち込む。
- ②取付フックを垂直位置にした状態で、取付フックの固定ピン(左右2箇所)を斜めに打ち込んで固定する。
- ③本体のフック部を、取付フックに引っかける。

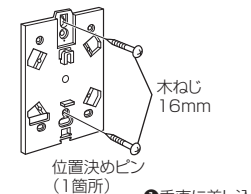
木ねじで取り付ける場合

- ①木ねじ(16mm)を途中までねじ込み、仮止めする。※コンクリート壁の場合は、市販のカーブルプラグを打ち込んで木ねじを使用してください。
- ②電源コードをコンセントまでの長さに合わせて取り出す。
- ③仮止めした木ねじに、本体のフック部を引っかける。
- ④木ねじを締め付け、本体を固定する。

付属の取付板で取り付ける場合

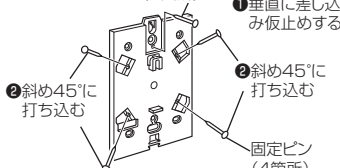
〈木質壁・コンクリート壁の場合〉

木ねじ(16mm)を図のようにねじ込み、取付板を固定する。
※コンクリート壁の場合は、市販のカールプラグを打ち込んで、木ねじを使用してください。

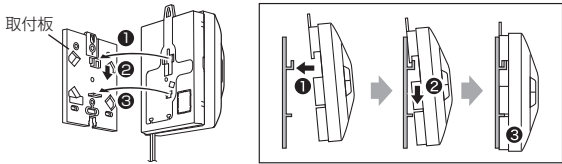


〈石膏ボード壁の場合〉

ピン(4本)を図のように打ち込んで、取付板を固定する。

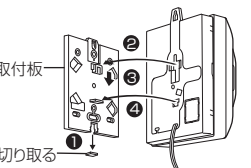
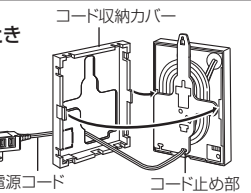


警報器本体を図のように取付板に取り付ける。



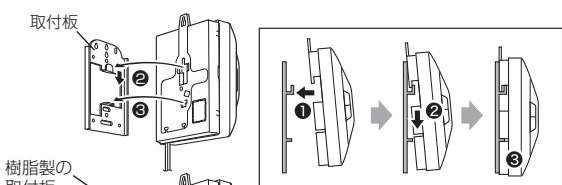
電源コードを本体中央から引き出すとき

- 電源コードを3巻き以上外す。
- 巻取板中央下のコード止め部から電源コードを引き出す。
- コード収納カバーの中央穴に電源コードを通し、コード収納カバーを警報器本体に取り付ける。
- 取付板の電源コード用ノックアウトを切り取り、警報器本体を取付板に取り付ける。



既存の取付板に取り付ける場合

警報器本体を図のように取付板に取り付ける。



樹脂製の取付板

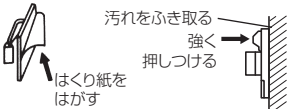
〈確認〉
取り付けた警報器にガタつきがないことを確認し、確実に固定されていることを確認してください。

5-4 コード振れ止めの取り付け

△注意

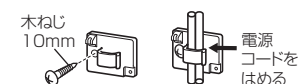
電気設備技術基準および内線規程により、電源コードはステップルや釘などで固定しないでください。電源コードに重いものを置かないでください。

- コード振れ止めのはくり紙をはがし、壁面に貼り付ける。



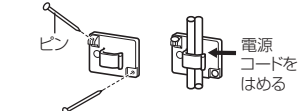
接着だけで取り付けできない場合

- 木ねじ(10mm)を使用する。
- 電源コードをコード振れ止めにはめ込む。

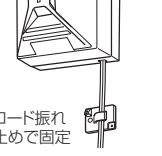


石膏ボード壁の場合

- ピン(2本)を打ち込んで固定してください。
- 電源コードをコード振れ止めにはめ込む。



※警報器が電源コードに引っ張られて傾くような場合は、付属のコード振れ止めを警報器のすぐ下に取り付け、いったんコードを真下に引き出して固定してください。コード振れ止めが接着だけでは弱い場合は、付属の木ねじ(10mm)またはピンを使用してください。



5-5 外部機器への連動接続

■外部機器との連動対応表

警報の種類 外部出力信号	上段			備考
	火災警報	ガス警報	CO警報	
警報時の動作	火災警報	ガス警報	CO警報	
外部機器 外部出力端子	火災警報 リード線 (赤-灰)	ガス警報 リード線 (白-灰)	CO警報 リード線 (白-灰)	
マイコンメーター	ガスを止める	※1	※2 30秒~60秒以内	
戸外ブザー	警報音が鳴る	×	30秒~60秒以内	ガス警報、CO警報用
住宅情報盤	機種により異なりますので、メーカーにお問い合わせください。			
集中監視盤	機種により異なりますので、メーカーにお問い合わせください。※3			
フラッシュアラーム	機種により異なりますので、メーカーにお問い合わせください。			

- ※1 お客さまの希望により、火災警報時にマイコンメーター連動遮断させる場合は、ガス会社にお問い合わせください。
- ※2 別途、警報器アダプターが必要です。(別売部品)
- ※3 本警報器は消防法上の自動火災報知設備の検知器として使用できません。

- 集中監視盤・住宅情報盤・フラッシュアラームに関する内容は、各メーカーにお問い合わせください。
- 上記表内以外に外部機器に関する内容は、ガス会社にお問い合わせください。

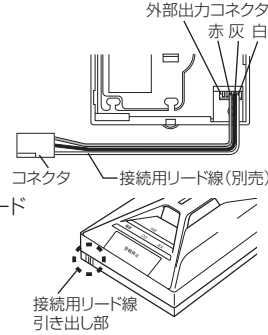
〈ご注意〉

- ガス警報、CO警報出力(コネクタ)は有電圧出力ですので、外部機器と連動する場合は極性に注意してください。
- 複数の外部機器を連動する場合は、ガス会社へご相談ください。
- 外部機器は専用をお使いください。(集中監視盤、住宅情報盤・フラッシュアラームを除く)

外部機器と連動する場合の注意点および点検方法

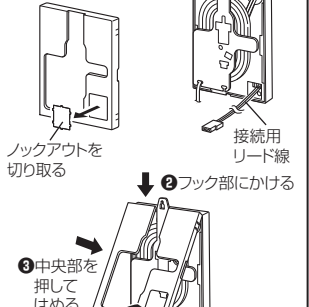
※外部機器との連動には、別売の接続用リード線(LL-31)が必要です。

- 接続用リード線(別売)を、警報器背面の外部出力コネクタに接続する。
- コード収納カバーの接続用リード線引き出し部を切り取り、接続用リード線を通す。
- コード収納カバーを警報器本体に取り付ける。



接続用リード線を警報器本体背面側に引き出すとき

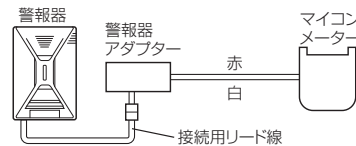
- 接続用リード線を、警報器背面の外部出力コネクタに接続する。
- コード収納カバーの信号線用ノックアウトを切り取り、接続用リード線を通す。
- コード収納カバーを警報器本体に取り付ける。



●下記の場合は、外部機器の取扱説明書ならびに取付説明書に基づいて連動点検を必ず実施し、外部機器が正常に動作することを確認してください。

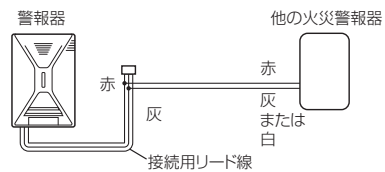
- 新たに警報器を外部機器と連動する場合。
 - 警報器を交換する場合。
 - 外部機器を取り付け交換する場合。
 - 配線を修理・交換する場合。
- 実施しなかった場合、外部機器が正常に動作しない恐れがあります。
- 警報器の外部出力が必要な場合は、下記の「外部機器との連動点検」または、「6-2 作動点検」に基づいて行ってください。
 - 集中監視盤またはインターホンなどと連動した場合、CO警報時でも集中監視盤またはインターホン側は、ガス警報を発する場合があります。

マイコンメーターとの連動方法



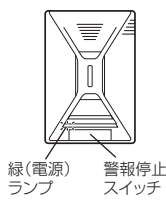
他の火災警報器との連動方法

他の警報器からの信号線とギボシ端子などで直接接続する。



外部機器との連動点検

- 警報停止スイッチを約3秒間押しと、「ピピッ」と開始音が鳴る。(緑(電源)ランプが点滅を開始)その後警報停止スイッチを離すと外部出力信号が1分間出力される。(有電圧は12Vと18Vが交互に出力される。)火災警報時の信号も出力される。
- 以下の動作を行う。



動作順	音声内容	ランプ				火災連動出力	有電圧出力(12V・18V)
		緑(電源)	黄(CO警報)	赤(ガス警報)	赤スライド(火災警報)		
1	「ウーウーカンカンカン 火災警報器が作動しました 確認してください」	点滅			点灯	ON	ON
2	「ウーウー ピピピピピピピピ ガスがもれていませんか」	点滅		点灯		ON	ON
3	「ウーウーピッポピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」	点滅	点灯			ON	ON
4	無音	点滅	点灯	点灯	点灯	ON	ON

(注)上記の動作は連動点検用で、警報時の動作とは異なります。警報時の動作は取扱説明書を参照してください。

- 約1分後に「ピー」と終了音が鳴り、監視状態(緑(電源)ランプ点灯)に戻る。

- ※上記の動作は、電源投入後の初回点検動作です。初回点検後、2回目以降の点検は、取扱説明書(P29.「日常点検」)をご覧ください。
- なお、有電圧出力は2回目以降の動作ではOFFになります。再度、有電圧出力の点検をされるときは電源を入れ直してから、連動点検を行ってください。

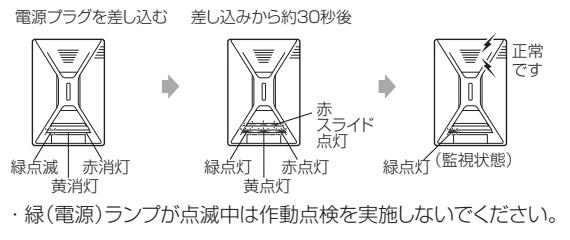
6 取り付け後の確認・点検

この警報器は、通電開始後の約30秒間でセンサを含めた内部回路が正常であることを確認する自動初期点検機能を有しています。製造から取付までが1年以内の警報器(警報器の製造番号シールに記載の製造年月から取付年月までが1年の間)まで以下の条件を満たす場合は、「6-2 作動点検」は不要です。「6-1 自動初期点検機能の確認」のみを行ってください。ただし、お客さまから要望があった場合は、「6-2 作動点検」を行ってください。

- 新規取付時(未入居の新築住宅を含む)
 - 更新時
- 以下の場合、「6-2 作動点検」が必要です。「6-1 自動初期点検機能の確認」の後に「6-2 作動点検」を行ってください。
- 製造から取付までが1年を超えた警報器

6-1 自動初期点検機能の確認

電源プラグをコンセントに差し込む。
緑(電源)ランプが点滅し、約30秒後にランプが全点灯した後、正常であれば、「正常です」と鳴って緑(電源)ランプが点灯に変わり、警報器は監視状態に入る。
万一、異常があれば、「故障です 販売店に連絡してください」と鳴りますので、警報器の交換をお願いします。
※赤(ガス警報)ランプが点滅することがありますが、しばらくすると消灯します。



●緑(電源)ランプが点滅中は作動点検を実施しないでください。

6-2 作動点検

おねがい

この警報器は作動点検をスムーズに行うため、監視状態に移行後3分30秒間(電源プラグをコンセントに差し込んでから4分間)に限り、採取ガスに対して反応しやすい状態が保持されます。必ずその間に作動点検を行ってください。ただし、通電開始後の緑(電源)ランプが点滅している間(30秒間)は、ガスをかけてもセンサが反応せず、警報を発しないため、作動点検を行わないでください。

上記時間を過ぎると、採取ガスに対して反応しやすい状態は解除されます。その場合は電源プラグを一度抜き、再度コンセントに差し込み直してから行ってください。

また、上記時間内であっても一度作動点検を行うと採取ガスに対して反応しやすい状態は解除されますので、ご注意ください。

通電開始後の緑(電源)ランプが点滅している間や点灯に変わる際に火災警報機能の点検を行った場合、約30秒経過しても「正常です」が鳴らず、点検ガスに対して反応しやすい状態に移行しない場合があります。

〈準備するもの〉

- 点検ガス採取器(別売品)
- ガスライター

△注意

アルコールを主成分とした点検ガスおよびライター式の点検ガス(生ガス)は、使用しないでください。センサ異常またはセンサ故障の原因になったり、警報状態からの復帰に大変時間がかかることがあります。

〈点検ガス採取器を用いて点検する場合〉

- ガスライターを点火し、炎の高さを約4cmに調節する。
- 点検ガス採取器の容器部分を十分圧縮して、採取管の先端を炎の外炎の中央部へ持っていく。
- 容器の圧縮をゆっくり(約3秒程度)ゆるめ、炎の中からガス成分を吸引する。

- おねがい 長時間加熱すると、ガス採取器が破損することがありますので注意してください。
- 点検ガスの採取が終わったら、速やかに点検ガス採取器を炎から離し、ガスライターの炎を消す。

△注意

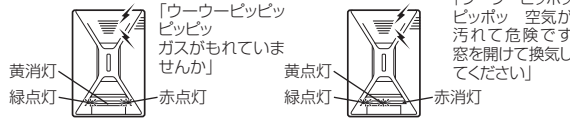
炎から出した直後の採取管は、先端が非常に熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。

- 採取管の先端部分の温度が下がるまで(約30秒程度)待つ。
- 採取管の先端部分を警報器の点検口にしっかり押し当てて、容器を圧縮し、採取したガスをゆっくり(約3秒程度)注入する。

△警告

採取したガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

- 赤(ガス警報)ランプが点灯し、ガス警報音(「ウーウーピッピッピッピッ ガスがもれていませんか」)が鳴り、黄(CO警報)ランプが点灯し、CO警報音(「ウーウーピッポピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」)が鳴る。吹き掛けのタイミングにより、ガス警報とCO警報の順番が逆になったり、交互に鳴る場合がある。



- ガスがなくなると、赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプが消灯する。

※電源を入れて(電源プラグをコンセントに差し込んで)から4分間は、有電圧出力が一度出力されると、ガスがなくなり監視状態に戻っても出力が保持されます。この間に警報停止スイッチを押しても出力は解除されません。電源投入から4分間が経過しますと通常の状態に戻ります。火災警報外部出力に保持機能はありません。また外部機器の動作を解除するときは、いったん電源プラグをコンセントから抜いてください。

おねがい

警報音が鳴りやまない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて再度「6-1 自動初期点検機能の確認」を行ってください。

火災警報機能の点検

- ヘッドライヤーの吹出口を、警報器の熱感知部に垂直に当てる。
- ヘッドライヤーの電源スイッチを入れ、温風を吹きかける。



△注意

ヘッドライヤーを離れた直後の警報器は熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。ライターなどの直火による加熱試験は、行わないでください。破損の原因となります。

- 赤スライド(火災警報)ランプが点灯し、火災警報音「ウーウーカンカンカン 火災警報器が作動しました 確認してください」が鳴る。
- 熱感知部周囲の温度が規定温度(約65℃)以下になると、赤スライド(火災警報)ランプが消灯する。

〈火災・CO・ガスもれ警報点検治具を用いて点検する場合〉

- ガスもれ点検キャップを本体から取り外す。
- コントロールレバーを「-」の位置に移動する。
- 着火確認窓内が赤くなることを確認
- ON-OFFスイッチを前方にゆっくり押し上げ「ON」の位置に移動する。※着火確認窓より着火の確認をしてください。着火すると着火確認窓内が赤くなります。(もし着火しなかった場合は、もう一度上記の操作を行ってください。)
- ※カチッと音がするまでしっかりと押し上げてください。
- 本体の先端を警報器のガス検知部付近に近づけ、約2秒程度ガスを吹きかける。
- ※10秒以上ガスを吹きかけないでください。本体および警報器を破壊・損傷する恐れがあります。

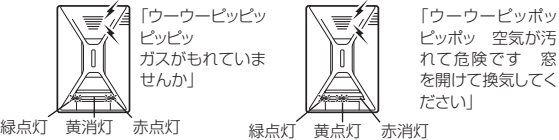
△警告

点検治具より吹き出されるガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

△注意

着火使用時には先端の樹脂部分は熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。

- ON-OFFスイッチを離す。
- ※ガスが止まっていることを確認してください。
- 赤(ガス警報)ランプが点灯し、ガス警報音(「ウーウーピッピッピッピッ ガスがもれていませんか」)が鳴り、黄(CO警報)ランプが点灯し、CO警報音(「ウーウーピッポピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」)が鳴る。吹き掛けのタイミングにより、ガス警報とCO警報の順番が逆になったり、交互に鳴る場合がある。



- ガスがなくなると、赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプが消灯する。

※電源を入れて(電源プラグをコンセントに差し込んで)から4分間は、有電圧出力が一度出力されると、ガスがなくなり監視状態に戻っても出力が保持されます。この間に警報停止スイッチを押しても出力は解除されません。電源投入から4分間が経過しますと通常の状態に戻ります。また外部機器の動作を解除するときは、いったん電源プラグをコンセントから抜いてください。

おねがい

警報音が鳴りやまない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて再度「6-1 自動初期点検機能の確認」を行ってください。